

## 中国の記事から (WTO/FTA・貿易・安全 ・その他)

---

2006年4月20日号

### 目次

- ◎商務部、輸入関税引き下げで貿易摩擦解決目指す  
【国際商報 2006年04月11日】
- ◎胡錦濤主席、18日から米国、中東、アフリカ等5カ国訪問  
【経済日報 2006年04月12日】
- ◎3月の農業生産財価格は安定的に上昇  
【中国化工報 2006年04月12日】
- ◎全国1人あたりの耕地面積は、1.40ムーに減少  
【経済日報 2006年04月12日】
- ◎商務部、違法な低価格での輸出行為を処罰へ  
【経済日報 2006年04月12日】
- ◎湖北省、10万トン級のエタノール混合燃料工場2カ所建設へ  
【中国化工報 2006年04月13日】
- ◎財政部、農業用生産財支出増加で農家へ125億元を直接補助  
【中国化工報 2006年04月14日】
- ◎山西省、純粋エタノール燃料タクシーが検収パス  
【中国化工報 2006年04月14日】
- ◎農業部、農産物などの農薬残留量検査結果を発表  
【中国化工報 2006年04月14日】
- ◎北京嵩天集団、黒龍江省綏化州でジャガイモ加工事業  
【経済日報 2006年04月20日】

---

◎商務部、輸入関税引き下げで貿易摩擦解決目指す

**【国際商報 2006年04月11日】**

商務部関係者はこのほど、年内に農産物輸入関税を現在の15.3%から15.2%に、小型乗用車・小型バス・SUVなど完成車の輸入関税を30%から28%に、トランスミッションなど自動車部品の輸入関税を13.5%・12.9%から10%に、一部化粧品の輸入関税を16%から12%に引き下げる予定であることを明らかにした。

また、大豆油、シュロ油、菜種油などの植物油の輸入割当制度を取り消し、一律9%の輸入関税を適用していく。中国側業者の外国製品輸入を奨励し、各国・地域との間で発生している貿易摩擦問題を解決していく方針である。

---

**◎胡錦濤主席、18日から米国、中東、アフリカ等5カ国訪問**

**【経済日報 2006年04月12日】**

外交部の劉建超・報道官は、11日の定例記者会見にて、胡錦濤主席が18～29日、アメリカ、サウジアラビア、モロッコ、ナイジェリア、ケニアの5カ国を公式訪問すると発表した。18～21日はアメリカを訪問、シアトル、ワシントンなどを回リエール大学で講演も行う。アメリカではブッシュ大統領をはじめとする指導者らと会談、中米関係や国際問題、地域問題などについて突っ込んだ意見交換を行う予定である。また、アメリカ工商界、学术界などとも広範に接触していく。

劉報道官は、「今回の訪米は中米関係の発展を促すと信じている」と語った。

---

**◎3月の農業生産財価格は安定的に上昇**

**【中国化工報 2006年04月12日】**

商務部市場運行司は、2006年3月の全国農業用生産財価格は安定的に上昇したことを明らかにした。製品別の卸売り価格は、尿素が2月より1.47%増の1790元(1トン、以下同じ)、国産リン酸二アンモニウムが同2.92%増の2466元、農業用ディーゼル燃料は同1.26%増の4664元となっている。石炭、石油などのエネルギーと原材料の値上がりが農業用生産財生産コスト増の原因となっている。

また、流通コストが高いことも生産財値上がりの一因とされる。専門家らは、政府関連部門は農業用生産財の値上りを抑えるよう呼び掛けている。

---

**◎全国1人あたりの耕地面積は、1.40ムーに減少**

**【経済日報 2006年04月12日】**

国土資源部は、2005年10月31日現在全国の耕地面積は18億3100万ムー(1ムーは6.6アール:約120万8千km<sup>2</sup>)、1人あたりの耕地面積は1.41ムーから1.40ムーに減少したと発表した。休耕造林などが耕地面積減少の要因となった。第10次5カ年計画(2001～2005年)期間中、全国の耕地は計1億1380万ムー減少した。このうち休耕造林によるものは8065万ムー、建設によるものは1641万ムー、農業構造調整によるものは1293万ムー、自然災害によるものは381万ムーとなっている。

同期は、また新たに2140万ムーの耕地が増加した。2001～2005年、全国の新規建設用地は3285万ムーだった。各地の内訳は東部地区が1796万ムー、中部地区が583万ムー、西部地区が906万ムーとなっている。

このほか、2005年度に減少した耕地面積は、建設によるものが318万2000ムー、災害によるものが80万2000ムー、休耕造林によるものが585万5000ムー、農業構造調整によるものが18万5000ムー、計1002万4000ムーとなっている。同年新たに増加した耕地は460万ムーであった。

---

### ◎商務部、違法な低価格での輸出行為を処罰へ

【経済日報 2006年04月12日】

商務部対外貿易司は、貿易秩序規範化のために関連法を整備していくことを決定した。同司の魯建華・司長は具体的措置として以下の点を挙げている。

1. 商務部は「対外貿易経営者違法公告弁法」に基づき、メディア、商務部サイトを通じて違法行為のあった業者リストを公開していく。
2. 商務部、海関総署(税関)、国家税務総局は2006年4月11日から、実際の製品輸出価格より低い額の領収書を発行するなどの違法行為を処罰する規定を施行する。
3. 価格競争を抑えることを目的に商務部は「低価格輸出行為の処罰に関する暫定規定」を改正、2006年上期にもこれを施行していく。

---

### ◎湖北省、10万トン級のエタノール混合燃料工場2カ所建設へ

【中国化工報 2006年04月13日】

湖北省発展改革委員会は、5年以内に10万トン級のエタノール混合燃料生産工場2カ所を建設していくとの計画を明らかにした。国は現在、エタノール混合燃料の普及を進めており、湖北省9都市では2005年12月1日から、自動車用エタノール混合燃料使用が始まっている。これら9都市のエタノール混合燃料需要は年間13万トン、燃料は全て河南天冠集団が供給している。

湖北省では今後、全省にエタノール混合燃料使用を拡大していく計画で、燃料需要は20万トンに拡大する見込み。需要拡大後は燃料不足も懸念されることから湖北省は生産工場建設を決定した。

---

### ◎財政部、農業用生産財支出増加で農家へ125億元を直接補助

【中国化工報 2006年04月14日】

財政部は、「ディーゼル燃料、化学肥料などの農業用生産財の支出増加にともない穀物作付け農家に対する直接補助に関する通知」を発表、125億元の補助を行うことを決定した。

農業用生産財の値上がりを受けて農家へ補助を行うのは初めて。国は元々2006年に食糧リスク基金から142億元を拠出し、穀物作付け農家へ補助を行う計画であった。今回の補助を加え、今年の穀物作付け農家への補助は267億元に達する見込みである。

また、財政部は現在、穀物総合補助制度導入について研究を進めており、今回の穀物作付け農家への直接補助も同制度の一部とされている。

---

#### ◎山西省、純粋エタノール燃料タクシーが検収パス

【中国化工報 2006年04月14日】

山西省の佳新能源化工実業有限公司が改造した純粋エタノール燃料タクシー77台が10日、山西省関係部民の検収をパスした。全国でも初めて純粋エタノール燃料を使用する小型車となる。同会社の改造技術は自主開発したもので国に特許を申請中である。また、改造できる車種も従来の2モデルからジェッタ(一汽-VW)、サンタナ(上海VW)、富康(神龍汽車公司)、ガゼル(長安鈴木汽車有限公司)に増えた。

山西省は、2006年、タクシー1000台をエタノール燃料車に改造する計画で、道路維持費、通行料、営業税減免などの優遇策を採って改造を奨励、支援している。純粋エタノール燃料車は、排ガス排出を5～7割減らすことが可能であり、国家自動車品質監督検収センターによる完成車を用いた試験では全国タクシー業界で唯一ユーロ3に適合した。なお、この車は、ガソリン、任意の比率のエタノール混合ガソリンを使用することもできる。

---

#### ◎農業部、農産物などの農薬残留量検査結果を発表

【中国化工報 2006年04月14日】

農業部は、3月27日、今年初の農産物品質安全情報を発表した。今年の元旦、旧正月期間に全国37都市で販売される野菜中の農薬残留量、22都市で販売される畜産物中のクレンブテロール残留量、8都市で販売される水産物のカラマイトグリーン残留量を検査したもの。その結果、野菜の合格率は前年同期比0.5ポイント増の94.7%、畜産物は2.3ポイント増の98.1%、水産物は88.1%となったことが分かった。

農産物は、済南市(山東省)、寿光市(同)などで合格率が高く、ハルビン市(黒龍江省)、福州市(福建省)などで低かった。畜産物の場合、北京市、天津市、上海市など16都市ではクレンブテロールは検出されなかった。武漢市(湖北省)、広州市(広東省)では合格率が低かった。水産物の場合、深セン市(広東省)ではカラマイトグリーンは検出されなかったが、他の7都市ではいずれも検出されている。

---

#### ◎北京嵩天集団、黒龍江省綏化州でジャガイモ加工事業

【経済日報 2006年04月20日】

ジャガイモデンプン最大手の北京嵩天集団は、黒龍江省綏化州にて年産30万トン級のジャガイモ加工事業を展開することを決定、同州政府との間で進出協定を取り交わした。投資額は3億元、黒龍江省では最大規模のジャガイモ加工事業となる。嵩天集団は、2006年内に綏化州でジャガイモデンプン生産ライン2本を建設し、2007年に変性デンプン、蛋白生産ライン、バイオ飼料生産ラインを建設していく計画である。これらの生産ラインが全て稼動した場合、年間の生産高

は5億元に達する見込みである。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により  
翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て  
独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。